

農業倉庫で蔵開き

1月11日(火)、年初行事の一環で毎年開催している蔵開きが、上新城低温倉庫で行われました。米や神酒などを供えた神棚が倉庫内に設けられ、役員18人が令和4年産の農産物の豊作や米価の安定、作業の安全などを願って手を合わせました。

佐藤広美組合長は「昨年の米価下落は大きな課題となり、農家やJAグループ、行政が一体となって英知を結集し対応していかなければならない。我々が集荷した米が計画通りかつより高値で売れ、今年の1等米比率などがよいものであること、集荷作業が事故なく円滑に進むことを祈っている」と話しました。



作業の安全などを呼び掛ける佐藤組合長

首都圏で「ちびまる子ちゃん」の「ひとめぼれ」販売

人気キャラクター「ちびまる子ちゃん」のパッケージの当JA産「ひとめぼれ」が、首都圏のスーパーに並びました。主人公「まる子」や「さくら家」の家族が出来秋の田んぼから呼び掛けるようなデザインで5キロ袋になっており、1都3県でスーパーなどを営む「いなげやグループ」の店舗で、1月12日(水)から数量限定で販売されました。

「ちびまる子ちゃん」の公式ツイッターでは抽選で5名様にプレゼントする企画が行われ、6000件以上の応募がありました。企画発売元の(株)ジェイグリーンからは都内の子ども食堂に贈られ、子どもたちのために活用されています。



「ちびまる子ちゃん」パッケージの「ひとめぼれ」

NEWS & TOPICS

枝豆実績検討会

1月14日(金)、枝豆の実績検討会が雄和支店で開かれ、生産者ら約40名が令和3年度の販売動向や共選設備の稼働実績などを確認しました。

令和3年度の栽培面積は前年度比7.4ヘクタール増の80.1ヘクタールとなり、17品種を県内外に、同比141.7%の192.9トンを出荷しました。単価の傾向が続いたなか、新規生産者や栽培面積、出荷量の増加によって、販売額は同比104%の977.8万円に上りました。

参加者は次年度の品質向上に向けて、排水対策や中晩生以降の品種の栽培管理、緑肥によるダイズシストセンチュウ対策なども学びました。



今年度の栽培経過を振り返る生産者ら

旬のホウレンソウの出荷最盛

ホウレンソウの旬を迎え、当JA管内から多くのホウレンソウが県内外に出荷されています。冬期はホウレンソウが肉厚なうえ栄養価が高く、いちばんおいしい季節となっています。

冬の冷たい外気にさらすことで糖度を高めた「寒じめ栽培」のホウレンソウも、出荷の最盛期を迎えています。ホウレンソウには寒さに当たることと糖度やビタミン含量が向上する性質があり、「寒じめ栽培」ではホウレンソウが生長してからハウスを開放し、収穫前のハウス内の気温を低くします。出荷開始前に検査を行い、糖度が7度以上などといった基準を満たしたもののだけが専用の「寒じめ栽培」シールを目印に出荷されています。



収穫期を迎えた寒じめホウレンソウ

